



令和6年  
新春対談

# 縁を紡いで40年

～結城市・長井市 姉妹都市盟約締結40周年記念 市長対談～



うちは しげはる  
長井市長 内谷 重治  
1956(昭和31)年生まれ。  
市職員や市議会議員などを経て、  
平成18年に市長就任、令和4年から  
5期目を務める。

結城市長 小林 栄

「長井紬」と「結城紬」。互いが誇る伝統的絹織物のつながりを縁として、昭和58(1983)年に姉妹都市盟約を締結した両市。

令和5年は盟約締結から40周年の節目として、6月に結城市民訪問団が長井市へ、そして10月に長井市民訪問団が本市に来訪し、行政の垣根を越えて交流を深めました。

今後も両市が手を取り合い、友好親善をさらに深めていくことを目指して、両市長による対談を行いました。

令和5年10月 結城市役所にて収録

## 「紬」の縁から交流が発展

**小林市長** まずは、40年という長きにわたり、長井市と結城市が素晴らしい友好関係を続けてこられたことを、心より嬉しく思います。両市のイベントに相互出展したり、地震や豪雨といった災害時に義援金や物資を支援し合うなど、密接な協力関係を築いてきました。今では、行政の垣根を越えて市民レベルでも友好関係が根付いていることが嬉しいですね。

**内谷市長** そうですね。結城市民の皆さんには、盟約締結当時から毎年のように長井市にお越しいただいており、交流の懸け橋になっていただいています。最近では、令和5年1月に長井市が大雪に見舞われたとき、J A北つくばの方々から白菜を1,200玉も寄贈していただきまして、学校給食や市民に配布して活用しました。いざというときに、「結城市は大丈夫?」「長井市は大丈夫?」と自然に思いをはせられる市民が両市にたくさんいることが、本当に誇らしいです。

## 水と緑と花のまち



●山形県長井市  
人口：24,952人(令和5年9月末現在)  
長井市は山形県の西南部に位置し、周りは朝日・飯豊連峰の山々に囲まれています。江戸時代には陸運・舟運の拠点として栄え、長井紬が主要産業の一つに発展しました。「花のまち」として知られ、国指定天然記念物の桜や、白つつじ、あやめが咲き誇り市内を彩ります。



市内神社に伝わる「黒獅子舞」 数百種が咲き誇る「あやめ公園」

**小林市長** 今から40年前、昭和58(1983)年に姉妹都市盟約を締結するにあたっては、長井市の長井紬と本市の結城紬という「伝統工芸」を軸にした交流や、ジュニアリーダーと呼ばれる子どもたちがお互いの家にホームステイするなど「青少年」の交流がきっかけになったと聞いています。私自身も、当時携わっていた青年会議所(JC)の活動で長井市を訪れたことがあり、それも「市民交流のさきがけ」だったのかもしれないですね。行政主導ではなく、市民同士の友好の上に結ばれた盟約だったからこそ、40年後の今でも密接な関係が続いているのだとしみじみ感じます。

**内谷市長** 当時の両市長が、調印記念樹の前で握手をしている写真(左)を拝見しました。私はもともと長井市役所の職員で、業務の一環で結城市を訪れたこともあったのですが、その時にはまさかこうして40周年の節目に私が市長として握手を交わすことになるとは、思いもありませんでした。実は、私が政治の道を志すきっかけになったのが、盟約締結時の市長である齋藤伊太郎氏なので、非常に感慨深いです。

## 姉妹都市盟約書

結城市と長井市は、市民相互の交歓によって培われたきずなを深め、ともに地域の特性を生かした魅力ある住みよいまちづくりを目指し、一層努力することを誓う。

両市は、地方自治の理想を高くかけ、産業、教育、文化をはじめ各分野の交流を図り、友好親善関係を樹立し、もって市民福祉の増進と両市の繁栄を念願して、ここに姉妹都市の盟約を締結する。

昭和58年7月18日

結城市長 奥澤順一 長井市長 齋藤伊太郎



記念樹の前で握手する両市長  
(左:齋藤市長 右:奥澤市長)



鹿窪運動公園内にある  
記念樹(梅の木)